

くまもと里モン賞受賞！ ～くまもと里モン プロジェクト顕彰～



平成26年「くまもと里モンプロジェクト顕彰」（熊本県主催）表彰式が3月18日（水）に熊本県立劇場にて行われました。今回、山都町からコミュニケーション活動部門において島木自治振興会、個別活動部門においてNPO法人丸山ハイランドの2団体がくまもと里モン賞を受賞されました。

島木自治振興会は過疎高齢化が進む中、「未来に向かって眠らせないぞ島木の宝」をスローガンに、買物難民解消を目的とした「島木のおみせ」の開店や、竹粉栽培による「島木かぐや米」づくりなど、様々な地域活性化事業に取り組みられています。また、NPO法人丸山ハイランドは、古民家を活動拠点とし、高齢



島木自治振興会
会長 岩田一昭さん（左）、甲斐鴻生さん（右）

NPO法人丸山ハイランド
理事長 甲斐利幸さん

等で耕作放棄地になっている場所に療育の園芸を取り入れ、障がい者の自立支援を促す活動や、一般ボランティア・地域住民との交流活動、農家レストランの経営などを行われています。

この顕彰は、農林水産業や農山漁村の多面性を発揮するため実施している「くまもと里モンプロジェクト」の一環として、県内の地域活動の中から、特に他の模範となるような取り組みを実施している優良な団体を積極的に評価し表彰することに より、県内の様々な地域活動の芽吹きをさらに促進することを目的で開催しています。

祝！ 大賞受賞 馬見原街づくり協議会 ～第14回くまもと観光賞～



熊本県の観光振興に貢献した個人や団体を表彰する「くまもと観光賞」の観光大賞に馬見原街づくり協議会（森川弘土会長）が選ばれました。

阿蘇や天草など主要観光地の候補を抑えての価値あるもので、3月19日には表彰式があり、蒲島都夫知事から表彰状が手渡されました。

馬見原街づくり協議会は、1997年（平成9年）に設立され、熊本と宮崎を結び、日向往還の宿場町として栄えた馬見原の往時の賑わいを取り戻そうと、日向往還ウォーキングや川歩きや三輪車レースなどを行うユニークなイベント「モライアスロン」を企画開催し、景観づくりに取り組んできました。

平成20年度には「くまもと景観賞」の大賞も受賞し、協議会の活動は以



前から高い評価を受けてきました。森川会長は、「県境の町として、五ヶ瀬町や椎葉村など宮崎の人たちとも連携しながら一緒に地域振興に取り組みたい」と抱負を話されました。

これまでも「ぼたん祭り」や「馬見原追分唄祭り」など地域が一体となったイベントに取り組んできましたが、「馬見原」利益めぐりや「馬見原フットパス」といった新しいイベントや「幣立神宮」との連携など意欲的で、馬見原商店街の活性化に期待が高まります。

平成26年度 熊本県たけのこ園 経営管理コンクール表彰



熊本県と熊本県経済農業協同組合連合会主催のたけのこ園経営管理コンクールがあり、山都町から林野庁長官賞に島木の荒木義継さん、3等賞に柚木の上田直司さんがそれぞれ受賞されました。

このコンクールは竹林の園地化技術及び経営管理技術の向上を図り、たけのこの品質向上と生産量の増大並びに早掘り等の生産技術の向上させることにより、農家の経営安定を目的に年1回実施されています。去年の林野庁長官に引き続き、2年連続での受賞となります。

また、3等賞の上田さんは、地形的に急勾配の条件が厳しい所において、長年の経験を生かし生産されています。



（左から）林野庁長官賞 荒木 義継氏（島木）
3等賞 上田 直司氏（柚木）



林野庁長官賞 荒木氏の園地

大造り物小屋 完成

浦川商店街（堂上讓二会長）が事業主体となり、浦川地区に八朔祭大造り物小屋を建築しました。八朔祭の大造り物の制作兼展示小屋の第1号で、イベント等にも利用する方針。大造り物小屋は高さ約8メートル、幅約6メートル、奥行約10メートルで、事業費929万円は町からの補助金を活用しました。事業用地は町有地で、浦川商店街と賃貸契約を締結します。今後、同様の大造り物小屋を浜町の各商店街と町が連携しながら建築し、商店街の賑わい創出を狙います。



（落成式）完成した、浦川の八朔祭大造り物小屋

29日に同地で開催されました。式では、堂上会長が「大造り物小屋は長年の地域の念願。住民の心のよりどころとして、十分に活用していきたい」と挨拶。工藤町長も「これを機に通潤橋の観光客のみなさんを商店街に呼び込むなど、商店街の振興につなげてください」と、祝辞を送りました。

